

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

| | | |
|----------|--------|-----------------------|
| 氏名 坂巻 路可 | 職名 准教授 | 学位 博士(医学)(神戸大学 2005年) |
|----------|--------|-----------------------|

| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
|--|-------------------------|
| メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有するポリフェノールの探索と有効性の解析 | 副腎髄質細胞、カテコールアミン、ポリフェノール |

| 研究課題 |
|---|
| 「メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有するポリフェノールの探索と有効性の解析」 生活習慣病においては、精神的なストレスも疾患を誘発する一因となり、メンタルヘルス対策が重視されている。本研究では、精神鎮静作用やリラックス効果の知られる香草の浸出液(ハーブティー)に含まれる個々のポリフェノールについて、交感神経系機能へ作用を示すものを細胞レベルで同定し、細胞系での作用機序等の解析と動物を用いた系で、生体内での影響の関連性を解析して、最小有効摂取量・許容限界量や作用機序を多角度から検討していくことを目的としている。 |

| 担当授業科目 |
|--|
| 栄養学実習(前期)(栄養学科) 総合演習Ⅱ(前期)(栄養学科) 管理栄養士演習Ⅱ(前期)(栄養学科) 高齢者支援学Ⅰ(前期 集中講義)(栄養学科、福祉学科、看護学科) 臨床栄養管理学(後期)(栄養学科) 臨床栄養学実習Ⅱ(後期)(栄養学科) 管理栄養士演習Ⅱ(後期)(栄養学科) 臨地実習Ⅱ(後期)(栄養学科) 国際栄養論(後期)(栄養学科) 栄養学(後期)(福祉学科) |

| 授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項) |
|---|
| 授業科目名【栄養学実習】 栄養学実習では、対象者の栄養状態を的確に評価・判定し具体的な栄養管理の方法を提案できる知識と技術の習得を目指している。授業で各回に解説したテーマにおいては、学んだ理論・知識が実体験を通し深まるように実習計画を検討した。昨年度に引き続き、第15回目に総まとめの時間を組み入れたことにより、其々の授業テーマにおける重要事項の見直しを行うことができ、統合的な理解に繋がった。 |
| 授業科目名【総合演習Ⅱ】 総合演習Ⅱでは、各回に症例を設定し症例検討を行った。症例の病態についての説明後、各自で栄養ケア計画について考えをまとめ、その後グループディスカッションを行った。グループの意見は、ホワイトボードにまとめ、学生の相互理解を図った。また、全体討議及び教員による解説を行い、正しく理解し学習内容が定着するよう努めた。 |
| 授業科目名【前期管理栄養士演習Ⅱ、後期管理栄養士演習Ⅱ】 管理栄養士演習Ⅱでは、関連する国家試験問題を解き、全ての問題について解説を行った。口頭及びパワーポイント資料による説明を行った。各選択肢については、関連事項も併せて解説し、図・表にまとめる等して理解を深めるよう指導した。解説後、正しく理解したうえで、各自で正文を作成できるよう授業を進めた。後期の管理栄養士演習Ⅱでは、受講生が持っている参考書にも配慮した問題作成を工夫し、理解度に応じた、解説の仕方を検討しながら授業内容の充実に努めた。 |

| |
|---|
| <p>授業科目名【臨床栄養管理学】</p> <p>臨床栄養管理学では、テキストに沿ったパワーポイント資料による講義を行った。授業中にはできる限り学生へ問いかけをし、学生が能動的に発言することで知識の確認、定着を図れるよう授業を進めた。講義の最後には、学生がポイントを理解しやすいように、毎回小テスト（またはそれに代わるもの）を行い、認を行った。正答できていない問題については、返却時に解説を行い、正しい知識の定着を図った。</p> |
| <p>授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】</p> <p>高齢者支援学Ⅰにおいては、福祉分野、保健医療分野、工学・技術分野の専門性と特徴を活かしつつ、アクティビシニアが積極的に生活し続けるための支援方法等について理解を深めるため、西南女学院大学、九州歯科大学、西日本工業大学の3大学による合同で、夏期集中講義が2日間行われた。本年度も、1日目に講義、2日目に演習が生まれ、3大学の学生が交流を図れるよう班編成が行われた。本年度は、受講理由として、昨年度、本科目を受講した先輩から感想を聞いて受講したという声が多く聞かれたように感じ、この流れが次年度にも繋がるよう講義内容の改善に努めたい。</p> |
| <p>授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】</p> <p>臨床栄養学実習Ⅱでは、各回に設定されたテーマとなる疾患の病態について解説し、献立の示範をしながら、調理操作におけるポイントの説明を行った。グループで実習を行うため、調理の際には、作業工程表を事前に作成し作業内容の確認や作業の負担に偏りがないように作業担当者を記載するよう指示した。また、次週の実習内容について、事前に献立等の資料を配布し、概要を説明し備えた。今後も、実践的な理解が深まるよう、実習内容の充実を図りたい。</p> |
| <p>授業科目名【臨地実習Ⅱ】</p> <p>臨地実習Ⅱでは、医療施設における実習に臨むにあたり、事前オリエンテーション、事前学習が進められた。事前学習では、実習における学びの明確化を図り、また実習施設からの課題においては、個々の学生に対する細やかな指導に努めた。また、実習期間中は、巡回指導を行い学生の実習態度や実習施設の状況の把握に努めた。また、実習終了後は、実習期間中の様々な出来事についての事後指導の強化に努めた。実習報告会では、各医療施設における学びや課題の共有を図り統合的な理解に繋げる。</p> |
| <p>授業科目名【国際栄養論】</p> <p>国際栄養論では、我が国の栄養問題また栄養政策について、十分に理解したうえで世界の栄養問題について理解を深めることができるよう、講義を進めた。昨年度に引き続き、情報収集においては、図書館やパソコン室の利用、JICA 研修施設における体験学習を通して、世界の食生活や栄養問題について多くの資料が得られるよう授業計画をたて進めた。また、それらをまとめて発表を行うことで知識の定着を図った。更に、知識の確認のため、2回の小テストを行った。</p> |
| <p>授業科目名【栄養学 福祉学科】</p> <p>福祉学科の「栄養学」では、日常生活に関連づけて栄養学を身近に感じ、興味をもって講義に臨めるよう工夫した。栄養素は種類が多いため、特徴を整理しながら理解できるよう授業内の充実に努めた。</p> |

| 学 会 に お け る 活 動 | | |
|-----------------|-----------|-------------|
| 所属学会等の名称 | 役職名等 (任期) | 加入時期 |
| 日本栄養・食糧学会 | | 2003年～現在に至る |
| 日本栄養改善学会 | | 2003年～現在に至る |
| 日本栄養士会 | | 2004年～現在に至る |
| 日本薬理学会 | | 2006年～現在に至る |
| 日本公衆衛生学会 | | 2006年～現在に至る |

| 2018年度 研究業績等に関する事項 | | | | |
|--------------------|-------------|---------------|-------------------------|-----|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称 | 概 要 |
| | | | | |

2018年度 研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|------------------|----------------------|---|
| (著書) | | | | |
| (学術論文) | | | | |
| (翻訳) | | | | |
| (学会発表) フラボノリグナン類であるシリマリジンがカテコールアミン分泌とインスリン分泌に及ぼす影響 | 共著 | 2018.7.21 ~ 22 | 第 13 回トランスポーター研究会 年会 | 坂巻路可、豊平由美子、石兼真、高橋富美 ポリフェノール化合物であるシリマリジンのカテコールアミン分泌とインスリン分泌に及ぼす影響について検討した結果を報告した。 |
| 柑橘類フィトケミカルのカテコールアミン生合成・分泌に及ぼす影響 | 共著 | 2018.7.21 ~ 22 | 第 13 回トランスポーター研究会 年会 | 豊平由美子、坂巻路可、石兼真、高橋富美 柑橘類の特融の機能成分のカテコールアミン生合成・分泌に及ぼす影響について検討した結果を報告した。 |
| Flavonolignan である Silybin のカテコールアミン分泌とインスリン分泌に及ぼす影響 | 共著 | 2018.11.17 | 第 71 回 日本薬理学会西南部会 | 坂巻路可、豊平由美子、石兼真、高橋富美 フラボノリグナンであるシリビンのカテコールアミン分泌とインスリン分泌に及ぼす影響について検討した結果を報告した。 |
| カテコールアミン動態に及ぼす柑橘類機能成分の影響 | 共著 | 2018.11.17 | 第 71 回 日本薬理学会西南部会 | 豊平由美子、坂巻路可、石兼真、高橋富美 柑橘類機能成分のカテコールアミン動態に及ぼす影響について検討した結果を報告した。 |
| MIN6 細胞からのインスリン分泌に及ぼすフラボノリグナン類シリビンの影響 | 共著 | 2019.3.14 ~ 3.16 | 第 92 回 日本薬理学会年会 | 坂巻路可、豊平由美子、石兼真、高橋富美 フラボノリグナンであるシリビンのMIN6細胞からのインスリン分泌に及ぼす影響について検討した結果を報告した。 |

| 2018年度 研究業績等に関する事項 | | | | |
|--------------------|---------|-----------|---------------------|--|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| | | | | 教育研究業績 総数 (2019年 4月6日現在) 著書 7 (内訳 単0, 共7) 学術論文 16 (内訳 単0, 共16) 学会発表 38 (内訳 単0, 共32) |

| 外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む) | | | |
|--|----------------------------|-----------------------|-----------------|
| (1) 共同研究 | | | |
| 研究題目 | 交付団体 | 研究者 ○代表者 () 内は学外者 | 交付決定額 (単位:円) |
| メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有するポリフェノールの探索と有効性の解析 | 科学研究費助成事業(平成28年度基盤研究C(一般)) | ○坂巻路可 (豊平由美子) | 700,000 |

| 外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む) | | | |
|------------------------------------|------|-----------------|----|
| (2) 個人研究 | | | |
| 研究題目 | 交付団体 | 交付決定額 (単位:円) | 備考 |
| | | | |

| 社会における活動等 | | |
|--------------------|------------|-----------------|
| 団体・委員会等の名称 (内容) | 役職名等 | 任期 期間等 |
| 産業医科大学訪問研究員 | 訪問研究員 | 2004年4月～現在に至る |
| 福岡県研究教育栄養士協議会 | 運営委員及び連絡委員 | 2010年4月～2017年6月 |

| 学内における活動等 (役職、委員、学生支援など) |
|--------------------------|
| |

研究紀要委員

委員

2016年4月～現在に至る